



MIYAKE ISSEY展：三宅一生の仕事

デザインの楽しさにワクワクする
三宅一生の服づくり

EXHIBITION

展覧会

日本最大級の展示スペースを生かし
多彩な展覧会を開催しています



企画展 MIYAKE ISSEY展: 三宅一生の仕事

デザインの楽しさに ワクワクする 三宅一生の服づくり

人間の身体と布の関係性を追求しつづけるデザイナー・三宅一生。国立新美術館で初めてのデザイナーの個展となる本展は、三宅氏の1970年から最新プロジェクトまでの仕事を今までにない規模でご紹介します。担当研究員の本橋弥生、日比野民蓉、西美弥子に聞きました。

—展覧会開催の経緯を教えてください。
絵画や彫刻など狭義の意味でのアートにとどまらず、広い意味でのクリエイション

(創作活動)をご紹介するため、当館では開館当初からデザイン・建築・ファッションの展覧会も積極的に開催しています。世界的に活躍をされている三宅一生氏のデザインをご紹介する本展は、2007年の開館前から実現を懇願していたもので、約10年間の三宅氏サイドとのやりとりの末、この度、貴重なアーカイブをお借りすることが叶い、幸運にも開催できる運びとなりました。

—本展の見どころは？

三宅氏の約45年間の仕事を通して、子どもから大人までデザインの楽しさに触れていただける展示になっています。例えば、館内に入ってすぐ天井から吊るされた《フライング・ソーサー》の大きなレプリカが皆様をお出迎えし、展示室内ではそのオリジナルの特徴を紹介する体験展示があります。また、三宅氏の代表作のひとつである「PLEATS PLEASE」のプリーツ加工の過程を直接ご覧いただけるよう、実物の機械も会場に展示します。最新プロジェクトの《132 5. ISSEY MIYAKE》





にいたっては、幾何学的にたたまれた1/2の大きさの服を、皆さんの手でマネキンに着せつけることができる体験コーナーもあり、三宅氏の服づくりの面白さに誰もがワクワクすると思います。たくさんのクリエイターが参加している点も見どころです。アートディレクションは、グラフィックデザイナーの佐藤卓氏。空間デザインの一部と服を着せるための「グリッド・ボディ」は、デザイナーの吉岡徳仁氏。また、展覧会ホームページや映像インスタレーションは、インターフェースデザイナーの中村勇吾氏が手がけ、展示の中に出てくる写真や映像の一部は写真家の高木由利子氏がご出品くださいました。三宅氏のものづくりは、いつの時代も最前線で活躍するクリエイター達とのコラボレーションを通して発展を遂げています。

—展覧会を通して何を伝えたいですか？
三宅氏とともに時代を歩んできた方々だけでなく、今まで「三宅一生」を知らなかった若い世代を含め、多くの人々にデザインの可能性を体感していただき、想像することやものづくりの楽しさが伝わればいいなと思っています。

CURATORS' VOICE

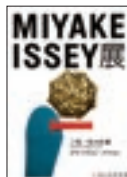


展覧会担当者3名から、「三宅一生の仕事」を一言で表わしてもらいました。

本橋：展覧会は、三宅氏の頭の中にある巨大な宇宙の一部が形になったものだと思います。三宅氏の発想の大きさや多くの人の協力を得て社会全体の夢を実現していく推進力を感じてほしいです。

日比野：しなやかに「今」をつくりだし、私達の日々を躍動的に彩る、生命賛歌のデザイン！

西：デザインの無限の世界とその面白さ、そしてそれを身に纏う楽しさに心が躍ります！



MIYAKE ISSEY展： 三宅一生の仕事

会 期：2016年3月16日(水) — 6月13日(月)
休 館 日：毎週火曜日 ただし、5月3日(火・祝)は開館
開館時間：10:00~18:00 金曜日は20:00まで
※入場は閉館の30分前まで
会 場：企画展示室2E

幸福を描き続けたルノワール 肌の質感をめぐる探求

人々の生活を見つめ、暖かな日の光と女性の持つ柔らかな美を愛したルノワール。本展は、オルセー美術館とオランジュリー美術館の所蔵する世界でも有数のルノワール・コレクションから厳選された100点を超える作品を通じて、ルノワールの画業の全貌に迫ります。印象派の画家として知られるルノ

ワールですが、印象派としての活動はわずか10年ほどで、やがて人物の肌の描写に力を注ぐようになります。絵具を混ぜ合わせずに並置する印象派の手法から、薄く溶いた絵具を塗り重ねる手法へと移行し、触れることのできそうな肌のポリウムや光輝くなめらかさを生み出しました。人物画家として円熟期を迎えたルノワールは、晩年にリウマチを患い、その手法はさらに変化します。硬直した手に絵筆を括り付けて描き上げた晩年の傑作《浴女たち》は、印象派時代の自由なタッチとやわらかな肌の質感が融合した集大成とも言える作品です。



《浴女たち》1918-1919年 油彩/カンヴァス オルセー美術館 ©RMN-Grand Palais (musée d'Orsay) / Hervé Lewandowski / distributed by AMF



《ぶらんこ》1876年 油彩/カンヴァス
オルセー美術館 ©Musée d'Orsay, Dist.
RMN-Grand Palais / Patrice Schmidt /
distributed by AMF

苦境の時代の中、波乱に満ちた人生を送りながらも、「絵は楽しくて美しいものでないといけない」と語り、生涯「幸福」を描き続けたルノワール。美しい女性や楽しい情景の中に秘められた、ルノワールの質感や色彩へのこだわりをご堪能ください。

「オルセー美術館・オランジュリー美術館所蔵 ルノワール展」

会 期：2016年4月27日(水) — 8月22日(月)

休 館 日：火曜日(ただし5月3日(火・祝)、8月16日(火)は開館)

開館時間：10:00～18:00 金曜日、8月6日(土)、13日(土)、20日(土)

は20:00まで ※入場は閉館の30分前まで

会 場：企画展示室1E

公募展

国立新美術館は、全国的な活動を行っている美術団体等へ発表の場を提供しています

公募団体等の活動

「日洋展」

一般社団法人日洋会は、1977年(昭和52年)井手宣通を中心に、団体の枠を超えた新しい日本の具象絵画の登龍門として、コンクール方式で開催された展覧会「日洋展」を前身としています。

「国際的な視野に立って、未完成であっても澆涸とした骨太い新人の発掘と育成」をスローガンにしたコンクールは10年続き、第10回展終了を機に、1987年から日洋展の運動を更に発展させようと美術団体日洋会が結成され、今日に到っております。現在、日洋会は二つの公募展を毎年開催しております。5月には六本木の国立新美術館において、号数制限50号以上から無制限までの大作を展示する「日洋展」、1月には東京都美術館におい

て、日洋会の次世代作家たちの審査運営により、20号以上50号以下で幅広い層からの参加と実験的先品を呼びかける「日洋会セレクション展」を開催しております。

普及啓発活動といたしましては、春と秋の研究会を公開しており、7月には公開講座日洋会夏季大学として理事・評議員による実技指導講座、学習講座を四谷美術研究所で毎年催しております。これら一連の行事は日洋展創立の理念、保守的でなく自己の新たな芸術表現を自由に発表する場を提供したいという精神を受け継いだものであります。

(一社)日洋会事務局長 稲葉徹應



「第28回日洋展会場風景」

美術館内のポスターに関する裏話

国立新美術館には全国の美術館や博物館、ギャラリー等から膨大な量のポスターが届きます。それらを当館が定めた基準に照らして選定し、掲示する作業も、美術資料室の重要な仕事のひとつです。

みなさんは、それらのポスターが当館のどこに掲示されているかご存知でしょうか？美術館（本館）には39枚分の掲示スペースがあります。掲示場所は正面入口を歩いて右手奥の休憩スペースと、地下1階ホールの授乳室前の壁面です。また、別館の入口からアトライブラリー別館



ポスター貼り替え作業の様子（本館1階）

閲覧室に至る階段の壁面にも、12枚分の掲示スペースを設けています。

掲示替え作業は、月に一度、休館日を利用して行っています。翌月の掲示替え日まで会期が続くポスター以外は貼り替えています。実は、本館の掲示スペースは形が決まっているため、B2サイズ以外は掲示できません。それを補うため、別館ではB2以外のサイズが掲示できるよう工夫しています。掲示作業後は、どんなポスターを掲示したか記録するために写真撮影をしています。

当館の展覧会やアトライブラリーにいらっしゃる際は、ぜひ館内のポスターにもご注目下さい。



ポスター掲示の様子（別館の階段）

EDUCATION

教育普及

美術に親しむワークショップや講演会の開催、鑑賞ガイドブックの配布などを行っています

日本からミャンマーへ！ 海をわたった展覧会と ワークショップ

昨年、国立新美術館で開催されて話題を集めた「ニッポンのマンガ＊アニメ＊ゲーム」展。教育普及室では、この展覧会に関連付けたワークショップとして、「動き出せ！色とかたち アニメーションのしくみを知ろう」（2015年4月開催）と「マンガの時間を『見る』という体験：解放される音、分解される運動」（2015年8月開催）を実施しました。親しみやすい手法を用いて、アニメやマンガをより深く理解するために企画された2つのワークショップは、どちらも好評を博しました。そして2016年、「ニッポンのマンガ＊アニメ＊ゲーム」展の国際巡回にあわせて、国立新美術館企画のワークショップが初めて海外で実施されました。場所はミャンマーの旧首都ヤンゴンにある国立博物館。展覧会が開幕した2月14日と翌15日の2日間、ゾートロープ作りのワークショップを開催しました。

ゾートロープとは、側面に等間隔でスリットが入った円筒の内側に絵が描かれている装置のこと。円筒を回転させて覗くと、



ミャンマー国立博物館でのワークショップ

アニメーションと同様の原理により、絵がまるで動いているように見えます。ゾートロープを初めて目にする参加者でも取り組めるよう、会場には簡単な手作業でゾートロープが作れるキットを用意。最初はコマごとの絵の描き方に戸惑っていた参加者も、指導役の日本人若手アニメーターたちの丁寧なサポートにより、それぞれ工夫を凝らしたゾートロープを1時間ほどで完成させ、クルクル回して「動く絵」を楽しんでいました。

ワークショップには十代の若い層を中心に81名が参加し、ミャンマーの若者たちの「アニメ」への理解が深まっていく手応えを感じる2日間となりました。

「ルノワール展」期間限定特別メニュー

開催中の「オルセー美術館・オランジュリー美術館所蔵ルノワール展」にちなんだ特別メニューを館内レストラン & カフェにてご用意しております。印象派を代表する巨匠ルノワールの生きた時代、本人が愛した料理などにちなんだ特別メニューをこの機会に是非お楽しみください。



3階「プラスリー ポール・ボキューズ ミュゼ」
「ルノワールの妻アリスの得意料理 ピヤペーズ」

KIGI_M_ exhibition

2016年4月27日(水)―6月27日(月)

B1階SFTギャラリーでは、植原亮輔と渡邊良重から成るクリエイティブユニット「キギ」の企画展を行います。本展では、不定期マガジン「KIGI_M」のコンテンツにあわせた、彼らのプライベートワーク、プロダクト、グラフィックを展示。ジャンルを超えたクリエイションの新しいあり方を提案します。



滋賀の職人達と立ち上げた「KIGI」や「D-BROS」のプロダクトなどの販売も行います。

PICK UP

ピックアップ

日本全国の展覧会情報も 国立新美術館ホームページから

当館ホームページでは、日本全国のおよそ1000ヶ所の美術館やギャラリーなどから展覧会情報を集め、さまざまなキーワードから検索できる「アート commons」という検索サービスを提供しています。また、当館で開催する展覧会やイベントの最新情報だけでなく、これまでに発行した「国立新美術館NEWS」や活動報告も閲覧できます。さらに、ホームページでは伝えきれない情報をFacebookやTwitterでも紹介しています。美術に関するさまざまな情報をぜひチェックしてみてください。

国立新美術館ホームページ <http://www.nact.jp>

Facebook <http://www.facebook.com/nact.jp> Twitter @NACT_PR

